



第4章 地域歴史遺産を活用できる人材の育成

井上, 舞
河島, 真
木村, 修二
横山, 朋子

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 17 (平成30年度事業報告書) :47-50

(Issue Date)

2019-03-22

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012147>



第4章

地域歴史遺産を活用できる人材の育成

地域歴史遺産の活用をはかるリーダー養成教育プログラム

人文学研究科地域連携センターでは、2004年度から2006年度まで、工学部建築学科などと協力しつつ、文部科学省の支援をうけ、「地域歴史遺産を活用できる地域リーダー」の育成を目的とする学生教育プログラムの開発に取り組んできた(文部科学省・現代的教育ニーズ取組支援プログラム)。この事業によって開発された教育プログラムが、2007年より文学部と大学院人文学研究科の正式科目として採用された。とくに人文学研究科では、「地域歴史遺産活用研究」「地域歴史遺産活用演習」と「地域歴史遺産活用企画演習」の3科目が、研究科内の「選択必須共通科目」として位置づけられることになった。地域連携センターでは2007年度より、これら3つの科目の授業内容と素材を提供している。3科目のうち、「地域歴史遺産活用研究」(学部講義名は地域歴史遺産保全活用基礎論A・B)は、地域歴史遺産の現状と課題を把握し、その活用のための基礎的知識と能力をつける入門講義である。「地域歴史遺産活用演習」は、地域歴史遺産の分類・整理・解説・展示内容などの実践的方法を学び取る専門的演習である。「地域歴史遺産活用企画演習」は、活用のための企画展示等を自治体関係者や地域住民と一緒に企画考案するような実践的演習である。

専門コースの学生・院生は、この3つの講義・演習をすべて履修し、専門外コースの学生・院生

はまず「地域歴史遺産活用演習」を取得し、自分自身の興味にしたがって「地域歴史遺産活用企画演習」を履修することが望ましいと指導された。

以下、各授業・演習の中身の概要について記す。なお3つの講義のうち、「地域歴史遺産保全活用基礎論A」は、博物館科目の「博物館資料論」としても開講された。

1. 地域歴史遺産活用研究(学部向けは「地域歴史遺産保全活用基礎論A」(前期/第1・2クォーター)・「地域歴史遺産保全活用基礎論B」(後期/第3・4クォーター)

いずれの授業も、奥村弘・村井良介・木村修二編『地域歴史遺産と現代社会』(神戸大学出版会、2017年)をテキストとし、以下の内容で実施した。

〈前期・第1Q〉地域歴史遺産論(1)資料論

- ① 4/12「序論：地域社会の未来のための地域歴史遺産」(奥村弘・人文学研究科教授)
- ② 4/19「歴史系博物館資料論：博物館の現状と課題」(古市晃・人文学研究科准教授)
- ③ 4/26「地域文献資料論」(前田結城・人文学研究科学術研究員)
- ④ 5/10「現代資料論」(佐々木和子・地域連携推進室特命准教授)
- ⑤ 5/17「災害資料論」(吉川圭太・人文学研究科特命講師)
- ⑥ 5/24「地域歴史遺産の救出」(川内敦史・人文学研究科特命講師)
- ⑦ 5/31「現代における地域社会の成り立ち－博物館を取り巻く政治社会状況－」(河島真・人文学研究科准教授)
- ⑧ 6/7「まとめと試験」(市澤哲・人文学研究科教授)

〈前期・第2クォーター〉地域歴史遺産論(2)活用論

- ⑨ 6/14 「地域歴史資料学とは何か」(市澤哲・人文学研究科教授)
- ⑩ 6/21 「地域文書館(史料館)論」(河野未央・尼崎市立地域研究史料館)
- ⑪ 6/28 「大学史資料と史料室」(野呂理栄子・神戸大学附属図書館大学文書史料室室長補佐)
- ⑫ 7/5 「文学資料と文学館」(井上勝博・芦屋市谷崎潤一郎記念館学芸員)
- ⑬ 7/12 「書き残すことの意味」(大槻守・香寺町史研究室主宰)
- ⑭ 7/19 「地域歴史遺産とまちづくり」(松下正和・地域連携推進室特命准教授、上田脩・丹波市棚原自治会PU事業推進委員会)
- ⑮ 7/26 「自治体史編集事業と地域資料」(岩城卓二・京都大学人文学研究所准教授)
- ⑯ 8/2 「歴史遺産・歴史資料の活用と大学の果たす役割」(坂江渉・兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室研究コーディネーター)

〈後期・第3クォーター〉地域文化財論(1)兵庫県内の文化財

- ① 10/5 「序論—地域の歴史遺産とその保全—」(奥村弘・人文学研究科教授)
- ② 10/12 「文化財とはなにか」(村上裕道・兵庫県教育委員会参与)
- ③ 10/19 「地域の文化財の発見」(黒田龍二・工学研究科教授)
- ④ 10/26 「兵庫県内の地域の文化財—埋蔵文化財とはなにか—」(山下史朗・兵庫県教育委員会文化財課長)
- ⑤ 11/2 「兵庫県内の地域の文化財—史跡・文化的景観—」(岡崎正雄・元兵庫県立考古博物館事業部長)
- ⑥ 11/9 「兵庫県内の地域の文化財—仏像を中心に—」(神戸佳文・兵庫県立歴史博物館)
- ⑦ 11/16 「兵庫県内の地域の文化財—近代化遺産を中心に—」(足立裕司・工学研究科名誉教授)
- ⑧ 11/30 「まとめと試験」(河島真・人文学研究科准教授)

〈後期・第4クォーター〉地域文化財論(2)保存・活用論

- ⑨ 12/7 「景観復元とまちの形成—地図、地形環境と土地の履歴—」(菊地真・人文学研究科准教授)
- ⑩ 12/14 「遺産の保存をめぐって—農業と農耕文化を中心に—」(堀尾尚志・農学研究科名誉教授)
- ⑪ 12/21 「大規模自然災害と文化財救出、その効果について」(内田俊秀・京都造形芸術大学名誉教授)
- ⑫ 1/11 「地域歴史遺産の保全・継承と活用を考える—襖の下張り資料—」(尾立和則・前京都造形芸術大学教授)
- ⑬ 1/18 「歴史的建造物の保存・修復」(足立裕司・工学研究科名誉教授)
- ⑭ 1/25 「博物館運営と歴史遺産の活用」(山地秀俊・神戸大学経済経営研究所教授)
- ⑮ 2/1 「「地域歴史遺産を〈活用〉したまちづくり」について考える」(井上舞・人文学研究科特命助教)
- ⑯ 2/8 「障がい者にやさしい歴史遺産の活用」(高田哲・保健学研究科教授)

〈全体を通して〉

昨年度に引き続き、基礎論A主として文献資料にかんする講義、Bをそれ以外、すなわち歴史的建築物、美術工芸埋蔵文化財、農業遺産、都市景観等に関わる講義として編成した。Aの講義は市澤が、Bの講義は河島が統括した。毎回の講義には、原則として井上がコーディネーターとして参加し、講師と受講生のやりとりや質疑のとりまとめなどを行った。受講生は学部・大学院・聴講生を含めて、Aが31名、Bが19名で、文学部以外の学生・大学院生の受講生も多かった。

(文責・井上舞)

2. 地域歴史遺産活用演習(学部授業名は「地域歴史遺産活用演習A」、大学院文学研究科は「地域歴史遺産活用演習」、人文学研究科は「地域歴史遺産活用企画演習」)

9月13日(木)から15日(土)まで、神戸

大学大学院農学研究科・篠山フィールドステーションにおいて、地域歴史遺産保全活用演習A(学部学生向け)、地域歴史遺産活用演習(大学院博士課程前期課程の大学院生向け)の授業を行った。これは、主に近世・近代の古文書の整理・読解を通じて、地域歴史遺産を基礎とするまちづくり、村おこしについて考える授業で、市民も参加して毎年実施しているものである。

今年度は、篠山市立歴史美術館に所蔵されている山田家文書と中川家文書の整理(目録作成)を行った。また、初学者に対しては古文書の取り扱い方、目録の取り方、また文書の読解についての基礎的な講座を並行して実施した。参加者は学生37人(大学院生を含む)、教員6人(非常勤を含む)であった。

また、2月17日(日)と18日(月)には、三木市の旧玉置家住宅において、地域歴史遺産保全活用演習B(学部向け)、地域歴史遺産活用演習(大学院博士課程前期課程の大学院生向け)、地域歴史遺産活用企画演習(大学院博士課程後期課程の大学院生向け)の授業を行った。趣旨は9月の授業と同じで、市民の参加もあった。今年度は昨年度に引き続き、三木市内の吉祥寺文書の整理と目録作成を行った。参加者は学生38人(大学院生を含む)、教員5人であった。

(文責・河島真)

地歴科教育論 C

「資質の高い教員養成推進プログラム」として採択され、2006～2007年度に実施した「地域文化を担う地歴科高校教員の養成」以来、現在まで継続してきている兵庫県立御影高校との連携事業を、今年度も引き続き実施した。センター関係教員が指導する「地歴科教育論C」(2年生向けには「地歴科教育論1」「同2」)では、御影高校

総合人文コースの課題学習を指導することを通じて、地域文化を担う社会科・地歴科教員の実践力を身に付ける授業を行った。

課題学習の成果は8本の報告にまとめられたが、このうち①「小学生を犯罪から守れ!～東灘っ子は自分の身を自分で守る～」、②「見えないごみをなくそう!～日本一美しい街神戸を目指して～」、③「どうしてみんな消えちゃうの?～六甲アイランド活性化計画～」の3つの研究が11月16日(土)に行われた関西学院大学総合政策学部主催のリサーチフェアに参加し、②が審査委員会特別奨励賞を受賞した。

また、受講生の中から1名が、2月12日(火)に影高校2年生のクラスで「日本史B」の実習授業を行い、同校教員の指導を受けた。授業のテーマは江戸時代の「寺子屋」。寺子屋で教えられた「読み書き」が、庶民にとって支配を受けるために必要だっただけでなく、何かを主張するための重要な手段ともなったことを、江戸時代の史料を通して考えるという内容で、最後には自分自身のデンマーク留学の経験を交えて、教育とは何か、学校とは何かを問いかけて授業を締めくくった。

(文責・河島真)

特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業を定着・普及させる活動

2010～2012年度特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業で開発した、地域歴史遺産を活用できる人材育成プログラムを、普及・定着を図り、2013年度より「まちづくり地域歴史遺産活用講座」とそのオプションプログラムである「古文書解読初級講座」を実施している。

1. まちづくり地域歴史遺産活用講座

本講座は、歴史文化を地域づくりに活用し、次

世代に残してゆくために、その担い手となる人材の育成が重要という考えのもと、年に2回、大学と地域とで開催してきたものである。今年度は、10月に神大開催の講座を開催した(11名参加)。なお前年度の報告書原稿締め切り後の2018年3月3日には三木市で地域開催の講座を開催した(22名参加)。この三木市開催についても本報告書で報告を行う。

(1) 地域開催(2018年度) ※2017年度中の開催

だが、2018年度分としてカウント

日程:2018年3月3日(土)

会場:三木市立みき歴史資料館3階会議室(三木市上の丸町4-5)

主催:三木市教育委員会

共催:神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

後援:兵庫県教育委員会、COC+ひょうご神戸プラットフォーム協議会

スケジュール

3月3日(土)

10:00~10:05 事務連絡

10:05~11:05 開講挨拶・地域歴史遺産とまちづくり(奥村弘)

11:10~12:00 地域歴史遺産活用事例の紹介(川内淳史)

13:00~13:10 参加者自己紹介

13:10~14:10 《地域の歴史の見方》現代における地域社会の成り立ち(河島真)

14:15~15:45 古文書の取り扱い方と読解のポイント(木村修二)

15:45~16:00 アンケート記入

16:00~16:50 意見交換会

16:50~16:55 修了証授与

16:55~17:00 閉講挨拶

(2) 大学開催

日程:2018年10月6日(土)・7日(日)

会場:神戸大学文学部B棟小ホール

主催:神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

共催:兵庫県教育委員会・COC+ひょうご神

戸プラットフォーム協議会

後援:神戸市教育委員会・神戸市灘区

スケジュール

10月6日(土)

10:00~10:05 事務連絡

10:05~11:05 地域歴史遺産とまちづくり(奥村弘)

11:15~12:15 地域歴史遺産活用事例の紹介(井上舞)

13:10~13:25 参加者自己紹介

13:25~14:25 地域の歴史の見方・古代(古市晃)

14:35~15:35 地域の歴史の見方・中世(市沢哲)

15:50~16:50 地域の歴史の見方・近世(木村修二)

10月7日(日)

10:00~11:00 地域の歴史の見方・近現代(河島真)

11:10~12:10 歴史資料取り扱いの基礎I(木村修二)

13:10~14:00 歴史資料取り扱いの基礎II(木村修二)

14:10~15:20 災害から地域資料を守る(加藤明恵)

15:20~15:50 アンケート記入

15:50~16:50 意見交換会

16:50~17:00 修了書授与・閉講挨拶(文責・木村修二)

2. 古文書解読初級講座

5月22日、6月5日、12日、19日、計4回の日程で神戸大学大学院人文学研究科学生ホールにて開催した。これまでの「まちづくり地域歴史遺産活用講座」の受講生に案内し、18名の参加者があった。講師は河島裕子氏(神戸大学非常勤講師)が務め、「なじみのある地名や、時代劇でよく見る高札等を題材にして頂いたので、面白かった」と好評であった。

(文責・横山朋子)